

# INACHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市狐島4288番地 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158  
 会長：小川秋實 副会長：唐澤敏治 幹事：小向誠一



2014-2015 国際ロータリーのテーマ

ロータリーに輝きを

Light up Rotary

2014-2015 RI会長  
 デイリーC.K.ホアン  
 台湾台北



第1298回 例会 平成27年2月3日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 大谷智鶴ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介  
 ・伊那西IAC顧問 伊藤志保里様  
 ・伊那西IAC 小田原萌様



■ 会長談話 小川秋實会長



「四つのテスト」は、ロータリアンがビジネスや日常生活で守るべき行動規範です。これが生まれた経緯と日本語訳への批判について話します。

シカゴ・ロータリークラブの会員であったハーバート・テラーは、1932年に倒産の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社(調理器具メーカー)の経営再建を任せられました。

テラーは、同業者にはないものとして社員の人格・信頼性、奉仕の心を選び、24語からなる行動基準を「四つのテスト」として決めました。会社の広告は、最上・極上などの表現を避け、製品の実際の姿を手短かに述べるようにしました。ライバル会社への非難・悪口は、広告や販売推進パンフレットから削除しました。調理器具5万点の注文があったとき、注文主が商品を値引きして販売したいといったので、この注文は断りました。他のディーラーに対して不公平になるからです。「四つのテスト」を厳格に適用した結果、信頼と好意の雰囲気、取引先や従業員の中に生まれ、会社の業績が次第に好転、5年後までに40万ドルの負債は利子とともに完済しました。「四つのテスト」が会社再建に有効だったということです。なお、テラーが定めた「四つのテスト」は、すべて旧約聖書に書かれているものです。

国際ロータリー理事会は、1943年この「四つのテスト」をロータリアンの行動規範、職業奉仕実践の基準として正式に採択しました。日本語訳は、東京クラブの本田親男氏によるもので、簡潔で分かりやすく、1954年以来、日本人ロータリアンの座右の銘となっています。ところが、ベテランのロータリアンから、「四つのテスト」は当初、商取引の基準を示したもののなのに、日本語訳はその意図が反映されていないという批判がでました。確かに、商取引を念頭に置いて英文を忠実に翻訳すると、「真実かどうか」は「嘘偽りはないか」、「みんなに公平か」は「すべての関係者に対して公正か」、「好意と友情を深めるか」は「信用を高め、より良い関係を築けるか」、「みんなのためになるかどうか」は「すべての関係者に利益をもたらすか」となります。

「四つのテスト」が生まれた環境では、このような翻訳が正しかったといえますが、国際ロータリーが「四つのテスト」を採択した時点で、商取引に限定せずに、ロータリアンの行動規範、職業奉仕実践の基準としましたが、従来の日本語訳のほうが適切だと思います。フランス語訳をみても、商取引に限定したものでなく、ロータリアンの行動規範を端的に表現したものになっています。

日本のあるロータリークラブが、不意の雨に備えて通勤客に傘を貸し出すプロジェクトを行いました。返却さ

れるか気がかりでしたが、傘の内側に「四つのテスト」を印刷したところ、傘は数多くの人たちに利用され、すべて返却されたということです。

## ■ 慶 祝 2月誕生日祝い 田中洋会員・平澤理会員・水谷今朝弘会員



## ■ ニコニコボックス

- ◆小川秋實 伊那西IAC顧問 伊藤先生、海外研修派遣生 小田原萌さんに挨拶にお出でいただき有難うございます。実りある研修であることを期待しています。
- ◆池上幸平 本日は節分ですが、今日と来週は私が幹事を務めますのでお手やわらかにお願いします。
- ◆矢野昌史 伊那西高校 伊藤先生・小田原さんご苦労様です。
- ◆唐澤千明 「イスラム国」に殺害された後藤さんのご冥福をお祈りいたします。今後一層のテロ対策が望まれます。
- ◆池田幸平 昨日とあるクラブで井上さんと池上さんと矢島さんに、カラオケのてほどきをしました。
- ◆宮澤友浩 すみません。1月全欠席してしまい、本年初参加です。“あけましておめでとうございます”も言いづらいです。仕事の関係で申し訳ございませんでした。
- ◆伊藤幸明 1月29日、三菱グループ岩崎弥太郎の弟、小弥太の別邸「開東閣」に招待された。品川の一等地のビル群の中、広大な敷地に明治時代の洋風建築があり、別天地でした。主催は東京海上、財部常務（ジャーナリスト財部氏の一卵性双生児の弟）。  
(発表 伊藤幸明委員長)

## ■ 幹事報告 池上幸平副幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

## ■ 委員会報告

### ・伊那商工会議所議員新年会の報告 小川秋實会長

1月27日 割烹だるま

新年会参加者は、来賓25人(市長、県議、市議会議長、ほか)と会議所議員約60人。知事からの賞状授与報告、新議員の紹介、来賓あいさつ、登内英夫名誉会頭の発声で乾杯ののち、懇談が活発に行われた。

### ・インターアクト地区協議会の報告 矢野昌史青少年奉仕委員長



国際ロータリー第2600地区第22回インターアクト (IA) 協議会が2015年2月1日松本あがたの森文化会館にて開催されました。出席者は私矢野と池上幸平会員です。

ホストクラブはあづみ野ロータリークラブで、午前は全体会議「国際理解について」の講演を元JAICAボランティアの小松洋様によって行われました。引き続き午後1部は全体会議で「自然との共生について」の演題にて燕山荘社長の赤沼健至(けんじ)様の講師により行われました。午後2時よりIAC生徒たちの意見交換会、1分間スピーチ、また会員増強についてのディスカッションや地区IA委員会の顧問教師連絡会が行われました。3時よりIA海外研修派遣壮行会、結団式が行われ(生徒13名 教師2名)我がクラブ提唱の伊那西高校IACから小田原萌(もえ)さんが参加いたしました。

・「ロータリーの友」2月号紹介 雑誌担当 平澤理委員



◎2月は世界理解月間

横書き P18 届け世界に！日本の心ー海外で活動する日本のロータリアンの内容を紹介。

①ベトナムの子ども達に届けたきれいな水と笑顔

(東大阪ロータリークラブ)

7年前からWCS(社会奉仕)活動としてベトナムの施設に対し支援してきた。今年は浄水器18台を寄贈した。支援しているのはハノイ郊外のマイディッチ子ども村。2~18才の子ども約230人が暮らしている。親のいない子どもに豊かな愛情を注ぎ将来の生活力を養い社会に送り出すことを理念としている村。衛生面で問題があったので、安全な水を飲むことができる様になり喜んで生活を送っている。

②P19 囲み

体育館シューズをカンボジアへ

(福德学院高校インターアクトクラブ)

靴を買うお金がなく裸足でごみの山を歩き回っている子どもたちが、けがをしたり病気になったりという話を聞き、元気に走り回れるようにと、卒業生に働きかけ傷みの少ない体育館シューズを送った。インターアクトクラブが時代から何を求められているかを考えて行動していく。

◎ちょっと知りたい木のはなし

縦書き P4 年輪の広さと方角は無関係

「木の年輪幅は南側が広い」と教えてもらった。しかし年輪の広い方角はまちまちである。この説はデタラメ。

「南側の木がよく育つ」というところから南側の年輪が広くなると思い込んでしまう。

P5 木は伐って使わなければならない。

「木を伐って使うことは環境破壊だ」というのはガセネタである。

植物の光合成というのは空気中の二酸化炭素を取り入れて酸素を放出する。だから木を植えましょうということになるのです。

しかし一つ問題がある。森林というのは若いうちは頑張って炭素を貯留するが、ある程度の歳になると頭打ちになる。だから木を伐ってやれば、二酸化炭素を再び吸収する。

■ 出席報告

会員数34名 出席免除会員8名 長欠会員2名 本日出席者24名 事前メイク3名  
出席率90.00% 前回出席率 修正なし (発表 井上修委員)

■ 伊那西IACご挨拶

伊那西IAC顧問 伊藤志保里先生



本日は皆様の例会にお招きいただきありがとうございます。

日頃、インターアクトの活動にご理解とご支援をいただき、そのお陰でインターアクトの活動が成立していると感じています。また、インターアクトクラブ自体もそうですが、生徒や私自身も、皆様に成長の機会をいただいていると感じております。

今回の海外研修も、本校の小田原萌を参加させていただくわけですが、普通であれば、高校生が海外へ行くということは滅多にできないことだと思います。このような貴重な体験ができるのも、ロータリークラブの皆様の小田原に対するご理解とご支援があ

ってこそだと思っております。

今回の研修で私が顧問として望むことは、一つは、色々な人の支えがあつての研修だということを感じて欲しいということです。

もう一つは、受身にならず、「自分から吸収する！」という気持ちで取り組み、行動して欲しいということです。

そして三つ目は、日本にはない、ハワイならではの雄大な自然があると思うので、それを肌で感じて感性を磨き、人として大きく成長して欲しいと思います。

改めて、伊那中央ロータリークラブの皆様のお陰でこのような研修に参加できますことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

もう一つ、インターアクトクラブでは新しく、使用済みのインクカートリッジ（canonとEPSONの純正に限る）の回収を始めました。もしよろしければ、ご協力をよろしくお願いいたします。  
今後も、伊那西高校インターアクトクラブと、そして海外研修に参加する小田原萌を皆様にも温かく見守ってほしいと思います。どうか、よろしくお願いいたします。

### 海外研修派遣生 伊那西IAC 小田原萌さん



皆様こんにちは。私は、3月に行われる海外研修に参加させていただくことになりました伊那西高校2年の小田原萌です。皆様のおかげで海外研修という貴重な機会をいただくことができました。ありがとうございます。

今回、私がこの研修に参加したいと思った動機は2つあります。

一つ目は、海外の高校生の生活について知りたかったからです。

今は日本の高校生活が当たり前で、海外の高校生がどのような生活を送っているかは想像がつきません。なので、ホームステイをさせていただくことで、日本とは違うところや同じところを実際に体験して、今自分のいる日本の外側の世界を知りたいと思います。そうすることで、日本で当たり前だと思っていた生活を改めて見つめ直すこともできるし、自分の視野を広げることもできると思います。

二つ目は、言葉の壁を越えて交流することで、「自分から積極的に伝える」ということをできるようになりたいと思ったからです。

普段の生活では、皆同じ日本語を話しているのでも、なんとなく過ごしていても雰囲気伝わっていることも多いと思います。そして、その“なんとなく伝わる”ことに甘えて、自分から積極的に伝えようとしていない自分がいるのを感じています。

海外では、日本にいるときのように雰囲気で伝わることはないと思います。自分から意識して伝えようとしなければコミュニケーションは取れないと思います。だからこそ、積極的に伝えることを意識して交流をして、「伝える」という力を身につけたいと思います。

そのために心がけたいことは、まずは積極的に行動をするということです。

今の私は意見をいうのにためらってしまうところがあります。なので、普段の学校生活でも、そして事前研修でも、特に意識して自信を持って発言をしていけるように変わっていきたいです。

それから、自分のことは自分ですべてやれるようにしていきたいと思います。今は両親や先生や友達に頼ってしまうことが多く、自分でやろうとしないところがあるので、周りにいる人に感謝をしながら、自分のことは自分で解決していけるようにしたいです。

そして、相手のことを理解するための第一歩として、相手の国の言葉である英語で話をする努力をしたいと思います。その為に、英語で挨拶ができるようにしたり、自分や自分の家族、住んでいるところなどを英語で伝える準備をしていきたいです。

英語だけでなく、事前学習で調べたことやそれ以外についても、相手の国や地域のことを知って行きたいです。

また、アメリカのハワイのルールや、ホームステイさせていただくおうちのルールをきちんと守り、日本の長野県の高校生の代表として参加しているという意識を持って、失礼のないような行動を心がけたいと思います。

これらのことを心がけ、この研修に参加させてもらっていることが当たり前にならないように、身の周りにはいる人やある物、皆に感謝できるような研修にしたいです。

そして研修から帰ったら、海外研修で体験し感じたことを、家族やインターアクトクラブの仲間、ロータリークラブの皆様にお伝えしたいと思います。そして、得たものを自分の進路選択や生活、クラブの活動に活かして行きたいです。

今回、伊那中央ロータリークラブの皆様のご支援があつて、この海外研修に参加することができたことに、改めて感謝したいと思います。私一人ではできなかったと思います。たくさんの人に支えられているということを忘れずに、この研修を納得のいく研修にしていきたいです。本当にありがとうございました。



■ 理事会報告

池上幸平副幹事



1. 2004-15年度ロータリー財団地区補助金事業について  
・バラの鉢植え等の奉仕実施日 3月24日（火）
2. 新たな奉仕事業について
3. 夜間例会の例会費について
4. 2月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
5. その他

■ 点 鐘

13:30

次回例会

2月10日（火） 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店  
クラブフォーラム（国際奉仕）支援留学生卓話